

平成 2 3 年度

「高齢者の外出移動支援サービス人材育成事業」
事業報告書

発行 平成 24 年 3 月

特定非営利活動法人

日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会

1 本事業の目的

被災地における高齢者等の外出支援、移動サービスを提供することによる生きがいづくりと、介護予防をすることを目的に、“休眠”（休職中）ヘルパー等の介護職、または希望者に対して外出支援、移動サービスに関する技術指導を行い、人材育成と外出支援サービスを実施する事業。

助成申請時、東日本大震災からすでに4か月が過ぎ、仮設住宅の建設が進むなど、一部の高齢者には居場所の確保はされつつあるが、今もなお、避難所や在宅で避難生活を送る高齢者も少なくない。

一方、避難所や仮設住宅では、多くの高齢者が車を失ったり運転を頼めるものがないなど、日常の移動に困難を極めている地域が多い。このような被災地では、公共交通機関の復旧も不十分であり、その復旧にも相当な時間を費やすことが予想されており、高齢者等の健康不安が強く懸念されている。

政府は災害救助法を適用した長期避難策として、宿泊施設を利用した集団避難所の確保を行い、セーフティーネットとしたが、利用できない人が少なくない。避難生活をする要介護高齢者や障がい者等には、移動が困難だからである。さらに、避難生活を続ける被災者の健康面を考慮し、短期的なリフレッシュ企画として、2～3日程度の短期疎開が認められたが、移動に介助が必要な人には受け入れ先でのケア等の支援体制がないため、利用することができず、夏場を迎えてさらに健康不安が高まっている。

被災地では、災害や不健康な避難生活により、急速に要介護高齢者の数が増えたことから、既存の介護サービス事業者だけでは介護需要が賄えない状態にある。

特に避難生活の中で介護認定を受けられない高齢者や障がいを持つ人など、自立した移動が困難な被災者には、その支援が不足しているのが実状である。

そこで、こうした移動ニーズにこたえる人材を被災地に配置し、移動困難者の日常生活における外出支援や、被災者に提供されるリフレッシュ避難の移動の際に同行介助する人材を整え、対応していく必要がある。

また、長期的には介護保険外サービスである外出支援や移動サービスは、被災地で求職する女性にも可能な仕事であり、一定の期間を経て経験を積んだ後、サービスの事業化による、長期的な就労へつなぐことができることから、この間の助成による支援が必要と考える。

今回の助成事業により、“休眠ヘルパー”や就労希望者に対する移動技術の指導を行うことにより、高齢者、障がい者の希望に沿った移動支援が行え、利用者の見守りや話し相手として、交流を通じた生きがいづくりに寄与できる。

また、避難中の高齢者、障がい者が希望するリフレッシュ避難への参加が可能となり、身体上の保健衛生の向上やメンタルケア面でも効果が期待される。

さらに、女性にも可能な就労の為の技術を身につけることができ、被災地における命の支えのネットワークが構築され、新たなコミュニティにおける関係が強化される。

外出支援や移動サービス技術を持った人が被災地に育つことにより、新たなネットワークが構築され、ボランティアや関係者が増えれば、継続的な移動サービスが可能となる。

また、サービスの利用が進むのと同時に、サービスの事業化を支援することにより、継続的な雇用が生まれ、被災地域の活性化が期待される。

2 事業の概要

	計画	実際
1) 被災地における事業実施のための広報活動	【期間】2011 年 10 月上旬～中旬 【場所】宮城県石巻市・福島県郡山市及びその他被災地域 【対象】事業参加を希望する人材 5 名 【方法】チラシを作成し、本事業の説明会を社会福祉協議会、NPO、災害ボランティア活動団体等の地域活動を通して告知する。	【期間】2011 年 11 月～同年 12 月 【場所】福島県郡山市、福島市、岩手県、茨城県、宮城県その他被災地域 【対象】事業参加を希望する人材 9 名 【方法】当協会の協会案内、養成講座案内の資料と共に、本事業の説明を、事業参加を希望する 9 名の会社・事業所で行った。
2) 移動サービス、外出支援人材の育成研修	【期間】2011 年 10 月上旬～同年 12 月 【場所】宮城県石巻市・福島県郡山市及びその他被災地域と東京 【対象】上記採用された 5 名 【方法】パソコンを貸与し、ネット通信を利用した通信教育と 7 日間のスクーリングを行う。(トラベルヘルパー養成講座、移動サービス運転者研修)	【期間】2011 年 11 月～2012 年 1 月初旬 【場所】福島県郡山市、福島市、岩手県宮古市、茨城県水戸市、宮城県仙台市、東京 【対象】福島交通 1 名、郡山市 2 名、岩手県北観光 1 名、茨城交通 1 名、仙台市 3 名 【方法】各自宅においてインターネットを利用しトラベルヘルパー養成講座 E ラーニング 50 回分(2 級)または 35 回分(準 2 級)を受講し、その後、日帰り介護旅行研修 2 日間、宿泊介護旅行 2 泊 3 日(2 級受講者のみ)、運転者講習 2 日間(全員)を受講した。 郡山市 2 名中 1 名は 2 級検定受験し、合格・資格取得。仙台市 3 名、郡山市 1 名は準 2 級検定受験し、合格・資格取得。
3) 関係者間の連携体制づくり	【期間】2011 年 9 月～2012 年 2 月(内 70 日間) 【場所】宮城県石巻市・福島県郡山市及びその他被災地域と東京。 【対象】避難所、仮設住宅、在宅避難者の内高齢者、障がい者とその家族。 【方法】研修受講中とその後に避難所等をまわり、高齢者等と話をすることと、連絡会合を行う。	【期間】2012 年 1 月～2012 年 3 月 【場所】岩手県宮古市、宮城県東松島市、福島県郡山市、福島県伊達郡、茨城県北茨城市及びその他被災地域 【対象】仮設住宅、雇用促進住宅の住民 【方法】リフレッシュツアーを企画しそのチラシを持って、郡山市・伊達市の仮設住宅を訪問、その他の地域はそのチラシを持ってツアーを企画した場合のニーズ、その他外出に対するニーズを聞き取る

4) 移動サービス、外出支援サービスの実施	【期間】2011 年 12 月以降～2012 年 2 月 【場所】宮城県石巻市・福島県郡山市及びその他被災地域と利用者の希望する移動先 【対象】避難所、仮設住宅、在宅避難者のうちの高齢者、障がい者とその家族 【方法】一般車両を利用した移動支援及び外出時の介助サービス。それぞれの被災地域の実情に応じて利用者を取りまとめる。	【期間】2012 年 3 月 【場所】福島県伊達郡桑折町、福島県いわき市 【対象】福島県桑折町仮設住宅の住民 【方法】福島交通大型バスを利用したリフレッシュツアーに 39 名が参加した。
5) 委員会の実施	【期間】2011 年 9 月～2012 年 3 月 【場所】東京事務局 【対象】専門性を有する委員長 1 名と委員 5 名 【方法】事業にかかる基本計画、予定作成、課題の把握・整理・検討及び事業全体の進捗管理を行う。東京の本部事務局において運営委員会を開催する。	【期間】2011 年 9 月～2012 年 3 月 【場所】東京事務局 【対象】専門線を有する委員長 1 名と委員 6 名、オブザーバー 1 名 【方法】事業にかかる基本計画、予定作成、課題の把握・聖地・検討及び事業全体の進捗管理、報告書作成。東京事務局において運営委員会を計 7 回開催した。
6) 報告書の作成	【期間】2012 年 3 月 【場所】東京事務局 【対象】協力関係機関・団体、対象地域内外の住民等 【方法】執筆担当者が作成し、報告書を事務局から 500 部配布する。	【期間】2012 年 3 月 【場所】東京事務局 【対象】協力関係機関・団体、対象地域内外の住民等 【方法】各項目を委員で分担し作成したものを事務局でまとめ、執筆担当者が作成し、報告書を事務局から 500 部配布した。
7) ウェブ等における広報活動	【期間】2011 年 9 月～2012 年 3 月 【場所】東京事務局を通して全国 【対象】地域社会や関係者 【方法】本事業を広く広報するため、事務局担当者が活動動画を交えて作成し、メールマガジンやプレスリリース等と連動させて情報発信を随時する。	【期間】2011 年 9 月～2012 年 3 月 【場所】東京事務所を通して全国 【対象】地域社会や関係者 【方法】本事業を広く広報するため、事務局担当者が web、広報誌に活動画像を交えて載せ、メールマガジンやプレスリリース等と連動させ情報発信を随時した。

この中で、具体的な内容として1)～5)の詳細は次項で記載する。

3 個別事業

1) 被災地における事業実施のための広報活動

【実施日】2011 年 11 月 22 日～2012 年 3 月 6 日 計6回

【訪問先】岩手県庁観光課、株式会社岩手県北観光、岩手県遠野市、福島交通株式会社、福島県郡山市、福島県会津若松市、茨城交通株式会社、茨城県北茨城市 他(以下参照)

【訪問者数】のべ7名

【考察】

「被災地における事業実施のための広報活動」が開始できたのは、震災からすでに8か月が経とうとした頃であった。

当協会では、震災直後より被災者の劣悪な避難環境について問題視しており、特に移動手段を失った人々が、自らの安全の確保や生活再建への道筋、手段を絶たれたままにいることに心身ともに大きな障がいをもたらすと考えていた。

そうした事実は、被災地についてのみ生じていることではない。つまり、超高齢者社会を迎えた我が国においては身近な高齢者問題として、全国どこにでも生じている事実である。そうしたことが、今回東北を中心とした被災地で起きたためにさらに大きくクローズアップされたことであると、平生より身体の不自由な人の外出支援、介護旅行を通じた活動を行っているものには映った。

こうした点への理解を「被災地における事業実施を行うための広報活動」の基本姿勢として事業を行った。理由は、復興後も継続性の高い仕事として地域から求められるサービスが提供できるスキルを身につけてもらわなければならないと考えたからだ。

今回の事業で人材育成の対象となる受講生は、①元介護事業者とその関係者、②地元交通事業者とその関係者らとした。

関係者とはホームヘルパーやガイド職として非常勤の雇用関係を事業者と結んでいる者等であり、ともすると雇用が不安定になりがちな職位にある者である。今回のような非常時にはその不安定な要素が顕著に表れる。

したがって、今回の広報活動には経営者クラスも立ち会ってもらうことにした。非常勤の立場にある受講生らに新たなスキルを身につけてもらうことにより、事業者と一体となって新たな需要を掘り起こすチャンスを見出してもらおうという狙いだ。

また、1月に入り盛岡、福島、郡山、水戸に続き、仙台からも受講生3名が希望を出してきたので、候補者選定の為の広報活動を追加した。時間の限られた中、当初の予定を上回る育成人員となるが、石巻からの避難生活者と仙台で被災し避難生活を送る人らのグループからの希望だった為、委員会の理解と承認を得て急きょ3名の追加育成を行った。

これら3名は現在仙台で外出支援事業を含めた介護事業者として起業を計画しており、今後も当グループで支援活動を行う予定でいる。

また、郡山の訪問介護事業者の非常勤職員である受講生らは、地元高齢者への新たな地域サービスとして、今回の受講経験、他地域の受講生との連携をさらに活かそうと事業化に取り組んでいる。

さらに、岩手、福島、茨城の地元交通事業者では受講生に介護スキルを与えるべく、独自にホームヘルパー研修に参加させるなど、引き続き雇用機会創出の為の事業化へ向けた活発な取り組みがみられる。

今回の被災、特に福島原発の問題で、東北地方の観光は大打撃を受けた。

中でも交通事業者は、修学旅行等の仕事の受注がすべてなくなり、少なくとも今後2年間は壊滅的な状況にあると思われる。

一方、自家用車での移動に支障が生じている被災地では、公共交通機関の役割が新たに求められる状況にあり、その利用者から高齢者を外すことはできない。

したがって、定期路線バス等の日常の交通サービスに、こうした移動に障がいを感じる高齢者への対応を身につけた職員を配置することは、地域に支えられる事業を継続する上でも有用であるとの説明を加えたことにより経営者への理解も深まったと感じた。

さらに今後2年は続く仮設住宅での避難生活者の移動支援という側面を忘れてはならない。故郷を離れ、集落での関係性もばらばらとなった人々の心を再び結ぶ術として、いつでも自由に行き来できる移動手段の確保は重要である。また、寝食を共にするグループ行動、保養としての旅行支援は重要な被災者支援活動となる。

こうしたコミュニティの再生と心身の健康、保養を目的としたリフレッシュ旅行を計画して、受講生らが避難所に持ち込むことは今後も続けていきたいと思う。仮に旅行そのものが成立しなくとも変化のない避難生活に話題提供を行うという意味からも支援活動になると考えられている。

以上のように復興後の地域再生としての移動問題をかかげ、今からその継続性を訴えた広報活動を行った。

2) 移動サービス、外出支援人材の育成研修

① トラベルヘルパー養成講座

【トラベルヘルパーの概要】

トラベルヘルパーは、介護技術を身につけた外出支援、旅の専門家である。健康に不安がある人や身体に不自由がある人の外出希望や介護旅行の支援活動、社会参加による介護予防を行う。

【講座内容】

・トラベルヘルパー養成講座「Eラーニング」

・日帰り介護旅行実地研修(2日間)

※日帰り介護旅行「実地研修A」では、屋外での車いす操作を学ぶ。いかに安全に、「人ごみ」、お寺や神社などの「じり道」、JRや地下鉄などの公共交通機関の乗り換えを体験する。

また、車いすに実際に乗ってみて、車いすからの目線を体験し、車いすに乗っている人の気持ちを感じる。

※日帰り介護旅行「実地研修B」では、日帰り介護旅行を計画する。与えられたテーマに沿って、実際に楽しめる旅行を企画し、どこに行くか、時間はどのくらいかかるか、公共交通機関のバリアフリー状況、電車賃、ランチ代、入館料などの値段まで計画する。

そして、実際に自分たちで作った「日帰り介護旅行」を体験する。

・宿泊介護旅行実地研修(2泊3日)

※都市部から公共交通機関を利用し、温泉地の宿泊施設に泊まっのの実地研修。空港見学、温泉地までの移動、観光地での移動介助、宿泊施設での入浴介助、外出・旅行中のトラブル発生時の対処法などを学ぶ。

【実施期間】

「Eラーニング」 11月1日～

日帰り介護旅行実地研修 2月4日・5日:7名 (11日・12日:1名)

宿泊介護旅行実地研修 2月18日～20日:3名 (3月18日～20日:1名)

【受講生】

・岩手 1名、宮城 3名、福島 3名、茨城 1名 計8名

【実施場所】

Eラーニング 各自自宅学習

日帰り介護旅行実地研修 東京

宿泊介護旅行実地研修 東京、埼玉

(7) 日帰り介護旅行実地研修 A

【行程】

- 9:30～11:00 オリエンテーション あいさつ・行程の確認・座学研修
- 11:00～11:10 休憩 車いす点検(空気圧・ブレーキなど)
- 11:10～15:45 車いす外出体験学習 段差・スロープ・エレベーター、公共交通機関等
- 15:45～16:15 休憩 感想文記入
- 16:15～17:00 フィードバック 反省会・アンケート記入

(4) 日帰り介護旅行実地研修 B

【行程】

- 9:30～9:45 オリエンテーション 前日の振り返り、研修の流れ、チーム編成
- 9:45～11:15 日帰り介護旅行計画 コース作成、行程作成、手配確認、ポスター制作
- 11:15～11:30 計画発表 作成した行程の発表
- 11:30～15:30 日帰り介護旅行体験 計画した日帰り介護旅行の体験
- 15:30～16:00 フィードバック 反省点、感想

～受講生感想～

- ・思った以上に体力や、他者や車いすの方への配慮が必要だと思った。
- ・声掛けはした方がいいと思うが、行動が全くとまわず、大変だった。
- ・じり道は乗っている方も振動が大きく、負担がかかるのがわかった。
- ・前輪を上げた時に乗っている人は不安を感じるので、ぶれないように気を付けた方がよい。
- ・今日は暖かく素晴らしい青空でしたが、悪天候だったらと思うと…。
- ・電車は時間の余裕を多めにとって利用しなければならない。
- ・体験してみないとわからないことがたくさんあった。
- ・仕事として時間の配分が重要な事が、身にしみた。
- ・どんな短時間でもストッパーをかけることを忘れてはいけない。
- ・車いすに乗る側の立場になって、振動や下肢の冷たさ、目線の位置、空気の汚れ・臭いの違いなど新しい発見ができた。
- ・エレベーター、電車にも乗って恐かったり、気持ちよかったりした。
- ・食事をするとき、周囲の雰囲気、お店の人の対応なども経験できた。
- ・人ごみの車いす操作が難しかった。

日帰り介護旅行実地研修 A	
『じり道入込み公共交通機関を利用する研修！』	
年 月 日	
渋谷オフィスから、渋谷駅までの移動で注意することはどんなことでしたか。	
段差に注意。登り、下り、人オブレーキの使用にて充分足りる所もあり、押しながら道の先を見る事。	
JR や地下鉄などを利用するときに、確認することはどんなことでしたか。	
改ざりも通る際、行き先をきくとしる事で案内にいたたてもしやうい、(車内)進行方向に向かて乗行に止める、乗客に平行に止め必ずスッパをやる、降車はふゆうを待って、	
じり道や、神社仏閣をご案内するときに、前もって確認する点はどんなことでしたか。	
じり道の走行時、ホームの便い方を、夕の空気圧、車内用道路の石畳記、車内使用出来るトイレの確認	
人ごみで車いすのお客様をご案内するときの注意点はどんなことでしたか。	
ホームで走行中の方におうけなう様押す、車内利用者の両手が障害にならない様に向くばかりする。	
今日の研修の感想をお願いします。	
電車での研修はとも感激しは、ゆも車内利用してあるが、親やな方々がいっぱいいるので、びろおにみてみた、と強く思ひました。	
時間の配分が重要な事身しました→仕事として、	
裏に続く→	
住所 〒	名前 白木美津枝
メールアドレス	
	ありがとうございました
	

2012年 2月 4日

渋谷オフィスから、渋谷駅までの移動で注意することはどんなことでしたか。

仙台より、あきらかに人が多いため、先を見て、又、その人達の動きを見ながら、車イスを動かさなければならぬのと、人の流れにも、2歩かそれ以上は、このことが勉強になりました。

JR や地下鉄などを利用するときに、確認することはどんなことでしたか。

エレベーター 各どこにあるか、事前に確認しておくこと、時間配分を充分考えなければならぬことを学んだ。

じり道や、神社仏閣をご案内するときに、前もって確認する点はどんなことでしたか。

じり道はどの位の長さがあるか、確認しておくこと、神社仏閣ではどこにスロープがあるか確認すること、重要なことと学んだ。

人ごみで車いすのお客様をご案内するときの注意点はどんなことでしたか。

人ごみで歩いている時、他の人の動きには充分注意が必要だと思ふ。又、車イスに乗っているわけだから、ゴミやゴミが押入で、目に入ったりするのを充分注意しなければならぬと思ふ。又、足やお尻が当たらないので、長い時間乗らしている時は声掛けしたりして対応するようにした方がよいと思ふ。今日の研修の感想をお願いします。

毎日のように車イスの方の介助をさせていただいてましたが、長い時間車イスに座られているときの状態や、人ごみの中を歩かれる時の状況等も、体験できたことがとても勉強になりました。

裏に続く→

住所 〒

名前 北村邦夫

メールアドレス



ありがとうございました



～日帰り介護旅行実地研修 A の様子～



『日帰り介護旅行を計画し実施する研修』に参加して

この度は、介護旅行実地研修にご参加いただきありがとうございました。
今回の感想をお聞かせ下さい。また、これからの研修、勉強会に望むことも、是非、お知らせ下さい。

2024年 2 月 5 日

◎ 今回の日帰り介護旅行実地研修Bについての感想を記入してください

①「日帰り介護旅行」の計画

＜日帰りAP国際サミナルへの旅行＞
時間余裕と、トイレの場所の確認、電車の時刻を見たり計画がたつた。

②「日帰り介護旅行」の実施

・電車移動は思より時間がかりました。
・トイレの場所を確認するの大事。
・食事場所の予約に時間通り行けるかと、障害者のトイレの場所の確認も必要で到着時刻も予定行程通りとするのも大変です。

③自分で計画した「日帰り介護旅行」を振り返って

酔時間と、障害者トイレの場所の確認と、食事場所も
トイレの確認が必要で、1つめに、印としてある時間配分で
お客様に教えておこうとの変更がありました。

④ これからの研修にのぞむこと(今後、開催を希望する研修テーマがあればお書き下さい)

全てが、勉強で今後の為に、障害者の方の取り扱いは、おもしろいので
学べる事は、教えていれたらいいと思ってる
私にとってはお客、新しい事やってみよう

住所 〒

名前

山本 由之

連絡先

あ・える倶楽部のメールマガジン「にこにこ通信」配信をご希望の方はアドレスをご記入ください。

@



おつかれさまでした！
トラベルヘルパー勉強会が
2月21日(火)18:45～あります。
是非ご参加下さい！



NPO日本トラベルヘルパー協会

www.travelhelper.jp e-mail: info@travelhelper.jp

電話 03-6415-6480 FAX03-6415-6488

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1丁目19番13号トップビル並木ビル10F

12

日帰り介護旅行実地研修B
～日帰り介護旅行を計画し実地する研修～ NPO日本トラベルヘルパー協会



チーム名	チーム森野		氏名	吉田 圭子	
利用公共交通機関	JR 京浜急行 有明線		行先	羽田空港	
出発日	H24 2/5 (日)		天気	くもり時々晴れ	
業務内容報告					
場所	時間	業務内容(移動状況、サービス内容など)			
オフィス	9:30	11:30	日帰り介護旅行計画		
渋谷駅	11:37	12:08	オフィス⇒		
JR品川駅	12:20				
トレスツ70	12:25	12:32			
京急品川駅		12:47			
羽田国際APT	13:07				
倉庫	13:30	14:05	江戸小路の「蕎麦前処」ニ尺五寸		
展望台デック	14:08	14:15	皆で記念写真		
有明線		14:35			
有明線	14:50				
JR品川駅		15:05			
有明線	15:20				
事務所	15:30				
現地バリアフリー状況など					
駅と羽田空港は、申し分ないぐらいの良い状況でしたか。 駅(品川)などでは、後付けのエレベーターの位置などが不便に感じました。					
メンバー評価					
氏名	鈴木 エル	氏名	森野 エル	氏名	高野 エル
よかった点		よかった点		よかった点	
利用者の気持ちになって考えてくれている所が、よかったです。		色々な手配をこまかくしていただき、本当にありがとうございました。		お話し上手で案内も沢山していただき、さすがガイドさんだと思いました。	
改善点		改善点		改善点	

～日帰り介護旅行実地研修 Bの様子～



(ウ) 宿泊介護旅行実地研修

【行程】2012年2月18日～20日実施

(1日目)

9:30～11:20 オリエンテーション 研修の説明、行程の案内、手配確認

11:50～12:00 昼食

12:00～12:30 準備

12:30～14:00 JR 渋谷駅～JR 東京駅 東京駅内の見学

14:00～17:30 東京駅～羽田空港 空港内見学、スカイアシストデスク・スマイルサポートデスク見学

17:30～18:00 羽田空港～JR 蒲田駅 宿泊ホテルへ

18:20～19:00 休憩

19:00～ 夕食

21:30～ ミーティング 反省会、翌日の行程確認

(2日目)

6:30～7:45 朝食

7:45～10:30 JR 蒲田駅～JR 川越駅

10:30～12:40 川越散策 事前課題で決めた行程で散策研修(昼食)

12:40～13:00 JR 川越駅～ホテル

13:30～15:30 入浴介助研修

15:30～19:00 休憩 報告書まとめ

19:00～20:00 夕食

20:30～ フィードバック 反省会、翌日の行程確認

(3日目)

7:00～7:30 ブラインド体験 アイマスクをして視覚障がい者体験アテンド体験

7:30～8:30 朝食

9:00～11:30 座学研修

12:00～13:00 昼食

13:00～13:20 ホテル～JR 川越駅

13:30～15:00 JR 川越駅～JR 渋谷駅

15:30～16:00 フィードバック 反省会、まとめ

～受講生感想～

- ・東京駅は新しくなって、ますますわかりにくく大変だった。
- ・羽田空港は広く、通路も進みやすく、設備など便利になっている。
- ・自分の手荷物を必要最小限にする。
- ・相手の方への心配りが間違わないように手伝いをするということは難しい。
- ・エレベーターはなるべくバックで入り、電車は必ず前進で入る。
- ・もっと早く研修を受けていれば2年前亡くなった祖母の願いを叶えられたかもしれない。
- ・路面のデコボコ、エレベーターの乗り込み、少しの段差も見極めが必要。

- ・電車での立ち位置、エレベーターの入る位置を速やかに見極めたい。
- ・前日の下見ができるなら、した方が翌日の移動がスムーズ。
- ・常に安心・安全が最優先。
- ・移動の際は時間配分も考える。時間の余裕が大事で、時間に余裕がないことは危険につながる。
- ・駅での誘導をお願いする場合、駅員さんには要点はしっかりと2回、確認の意味でお願いをする。
- ・視覚障がい者研修では、階段の下りがすごく怖い。
- ・ブレーキのかけ忘れを注意しなければならない。
- ・「相手の気持ちになって命を預かる」を忘れず行動する。
- ・スロープのない駅で、焦らずスムーズに行動する。

実地研修報告書(表紙)

NPO日本トラベルヘルパー協会



年 月 日

【2012 年 2 月 8 日() ~ 2012 年 2 月 20 日(月) 3 日間】

メンバー名 (作成者に○印)	森野 北子	吉田 光子	名前	高野 幸子
	入道 ひろえ	高野 幸子 ○	行き先	東京駅羽田 井ノ木川越方面
行程	1日目 東京駅～羽田駅・国際線 飛行機			
※主な観光地など 具体的に記入	2日目 小浜市川越 蔵へ行く(宇川会館見学・時金庫前にて食事と 鐘入替をりく(宿中にて) "蔵"に、昨の荷取品、10選品を、 Hにて入浴施設			
	3日目 朝倉側にHの外市 散策			
※変更点は赤字で				
具体的な介護サービスポイント				
移動	*事前に行き先のバリアフリー状況を確認をする など			
	東京では、駅見当に誘導案内、してもらいました →Tph.東京市内電車車上線は、川越駅に到着して下車して 2日目の川越駅は路線バスに乗る。バスの乗降エレベーターが 不便。バスのバリアフリー化を促す。			
公共交通機関	JR山手線・東京モノレール 京浜東北線、常磐線回入			
	JR京浜東北線 東京人口有楽町線(東武車上線) '東武バス'			
入浴	ホテルA部屋の浴槽と湯船7日間準備 お客様の残存機能を把握し、肩掛けと身体に負担を かけないように心配している。お客様は満足。 無理はない。(命にかかると)			
観光施設	2日目の川越は、観光客が多い街(着物 お店) 竹やぶのり 歩いてゐるのを車々に気づかされても、こまめに歩行者専用 倉庫施設も全体的に、よく整備されている。車々も安全で、トイレは、 きれいだった。			
宿泊	1日目は、ビジネスホテルで、車々を部屋に搬入してくれ、 とても良かったです。お土産もいただきました。			



年 月 日

業務内容報告

場所	時間	業務内容(移動状況、研修内容など)	TH	車いす
渋谷	12:09	須江坂から入る。渋谷駅へ乗込2台乗降	吉野	高田
渋谷駅	12:31	12:31		
東京駅	13:03	数年前中。数人に挨拶して、L-カメの下で撮影の準備をした。 湘田監督と同行者の乗車の準備。L-カメの準備完了	高田	吉野
沼津市役所	14:00	14:24		
湘田市役所	15:25	スロースタートで、(車内利用)見学。 スロースタートで、見学。	吉野	高田
国体会場	15:59	15:20 エピソードを説明して、乗車は介助他、充実した(感動的)。		
京浜東北線	17:25	17:38		
京浜東北線	17:46	車内で乗車・乗降。		
(分)春巻園	19:10	18:00		
R&B H		19:15		
S-1人作	19:25	車内での乗車・乗降。人々に挨拶。L-カメの下で撮影の準備。 車内での乗車・乗降。人々に挨拶。L-カメの下で撮影の準備。 本日の作業終了。明日の目標。 終了12時。湘田駅へ入る。(下見)。		

本日の研修感想(介助の注意点、サービスのポイント)

真野川 吉田川、八景川の順で4、7を1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000、1001、1002、1003、1004、1005、1006、1007、1008、1009、1010、1011、1012、1013、1014、1015、1016、1017、1018、1019、1020、1021、1022、1023、1024、1025、1026、1027、1028、1029、1030、1031、1032、1033、1034、1035、1036、1037

次回への改善点(研修したい事)

有利用の場合、バリエーションを多く持つのがよいのは、必要最低限に
するものに、紙、インクを購入し、それを付けた。在墨に必要材料を、お、お考えたいと思います。

メンバー評価

氏名 吉田 孝子さん	氏名 八巻 千代さん
よかつた点 とにかく、行動が先で、 しゃべりながら聞いていました。 お母さん	よかつた点 親色紙(刺繍)変え方に、 お母さんに、行動が先でした。 フコニヤニヤニヤニヤニヤニヤ と書いていました
改善点 点字70:17.0の15の字の 70:17.0の15の字の	改善点 お母さんのことは、言えませんが お母さんに、お母さんに、 お母さんに、お母さんに、 お母さんに、お母さんに、



第 2 日目 2 月 19 日 (D)
現地利用交通機関会社:

名前: 高田美加子
ドライバー名:
天気: 晴

2012年 2月 19日

[illegible]

本日の研修感想(介助の注意点、サービスのポイント)

市川のバスに乗り換えて19年7月4日7時30分頃、市川市

今日午後7時左右に、倉庫裏の軒下の外に、森野さんに知らせ、付、
車庫に居る以上、とて大変だと思ひます。感謝と反省の目です。

今日、駄馬とハの連絡は(?)に。70-70では通電を止めても又いれず、二つ分
又いれたいので仕方ないで。~~また~~
~~また~~

入浴介助はとて大変だと思いましたが、相手の方への配慮が非常に上手な時に、お年寄りも
すくなくお喜ばれたいと思います。ご協力ありがとうございます。

次回への改善点(研修したい事)

駐員室にhallを確認

エレベーターと電車で乗り降り。車を入れる。エレベーターは、ガラスの壁で、電圧は必ず常に前通を
エレベーターも利用

メンバー評価

氏名 森野 純子	氏名 吉田 孝子	氏名 八巻 六三郎
よかつた点 お川や、先々へ 気が引かして おぼろしい思い出です	よかつた点 軍人の方へ慰(い)め。 心配が長くおきていて 見習った思い出です	よかつた点 相対に安心な事(こと)は 無理でも、終(お)わりまで お世話になりました。
改善点	改善点	改善点



2012年2月20日

業務内容報告

場所	時間		業務内容(移動状況、研修内容など)	TH	車いす
元祖のり子	7:00	7:30	月曜日、17:00、公園付近に人集り、Hachの警備、研修	1名	2名
朝倉180分	7:35	8:00	朝倉180分、朝倉180分、Hachの警備、研修		
金沢120分	9:05	12:00	3月10日、120分、Hachの警備、研修		
Hach120分	12:05	12:50	おひさ、警備、研修		
朝倉180分	13:00	13:20	昨日、朝倉180分、Hachの警備、研修		
川崎180分	13:40	14:19	昨日、川崎180分、Hachの警備、研修		
川崎180分	14:45	15:05	昨日、川崎180分、Hachの警備、研修		
川崎180分	15:05	15:22	昨日、川崎180分、Hachの警備、研修		

本日の研修感想(介助の注意点、サービスのポイント)

視覚障害者研修を、短い時間で行う人達にする必要が出て来、これも大変な思いです。
~~2年前~~ スライドで、戦友の最後に見た開闢地を空から見た方の涙や思いを
 伝えて、涙が出ていました。もちろん、研修を受けている
 2年前と比べると、自分の思いが伝わっているか、と思います。

次回への改善点(研修したい事)

メンバー評価

氏名 杉原 弘	氏名 若田 弘	氏名 八巻 弘
よかった点 3月10日の土曜日の10-15-を 組んでおこなわれた。 Team Aのローを1で下土りされた。 2年生は(柳井、井川)に任せられた。 改善点	よかった点 練習の5分間。(柳井、井川) 9-10-11-12-を組んでおこなわれた。 10-11-と12-13-の間は、自分見下土りされた。 2年生は柳井、井川に任せられた。 改善点	よかった点 最終日始めて、八巻 弘に。 軍役を1で10-11-を組まれた。 2年生は柳井、井川に任せられた。 改善点

～宿泊介護旅行実地研修の様子～



(I) 運転者講習

【目的】

被災地では様々な要因が複合的に作用して外出が困難となり、閉じこもりがちな生活を余儀なくされている方たちがいる。こうした方たちの生活に必要な外出手段としてドアツードアの移動サービスの必要性が高まっていることを受け、本事業に、全国移動サービスネットワークによる「国土交通大臣が認定する自家用有償運送の運転者向けの講習(認定講習)」を組み込み、移動サービスの担い手を増やすことを目的とした。

【実施日】

2012年3月3日(土)・4日(日)

【開催場所】

(1日目)講義

「総合福祉センター」 福島県郡山市

(2日目)講義・実技

「郷さくら美術館」 福島県郡山市 駐車場

【受講人数】8名

【講座内容】

(1日目)

9:30～10:20 移動サービス概論

10:30～11:20 利用者理解

11:20～11:50 セダンの利用者理解

11:50～12:40 昼食

12:40～14:10 接遇・介助

14:10～14:30 セダンの接遇・介助

14:40～15:30 運転について

15:30～16:00 福祉車両

16:10～17:00 リスクへの備えと対応

(2日目)

9:00～9:30 福祉車両(実技)

9:40～12:50 2班に分かれて介助実技+セダンの介助実技、運転実技

【講師】山本憲司・佐々木将純・秋山糸織

(全国移動サービスネットワーク認定講師)

～受講者感想

- ・車いすを使用しての階段昇降研修は体で感じる事ができた。
- ・運転実技、接遇・介助、セダン介助実技などの演習では、1つ1つ確実に車いすを確認しながら作業していかなければならない。
- ・少しの段差も車いすだと大きく感じる。
- ・車いす利用者により後方に死角が生じる。
- ・コミュニケーションによる声かけが大切。
- ・利用者の安心・安全を守ることを常に心がけできるようになる。
- ・リスクを意識する。
- ・「バイスティックの7原則」(個別化の原則、自己決定の原則…等)を意識する。
- ・移動サービスの利用者を理解する。
- ・利用者様への接遇と気配り、サービスとは何か等という点が重要。
- ・運転実技では固定ベルトの装着や実際に車いすの利用者様を乗せてのブレーキのかけ方や発進や声掛けの仕方、利用者様が車内でどんな視野を見るのか、死角などはとても勉強になった。
- ・様々な障がいを持った利用者様セダンに乗せる介助方法や、残存機能をいかに活用してもらえるように声掛けをするかなど、とても必要で忘れてはいけないことと痛感した。

【考察】

トラベルヘルパー養成講座においては、外出時での車いす操作方法や実際に車いすに自ら乗ることで車いす利用者の体験ができたことなど、普段の生活では体験できない事や、施設・在宅内での介護だけでは体験できないことが学べた。

受講生の半数は介護従事者であり、介護経験がある人が多かったが、受講生の感想からも読み取れる通り、施設在宅とは違う『屋根のないところ』での介助はまた新鮮な学びになったのではないかな。

また運転者講習は、2日間の移動サービスに関する講義と実技を経て、全員が修了証の交付を受けることができた。講習冒頭に、講師が受講者に、自分の暮らす地域にどのような移動サービスがあるか質問したところ、移動サービスの内容を詳しく把握している人は少なかった。震災以前、自分の力で外出できなくなった場合、家族・親族の支援をうけることが当たり前であった地域では、移動サービスという社会資源は育ってこなかった。また、市民活動の移動サービスは、2006年の道路運送法改正にともない、有償のサービスを開始することのハードルが上がった、新たに参入する団体が増えにくくなっているといったことが、認知度の低さに繋がっていると思われる。しかし、講義が進むにつれ、受講者の中に、すでに車による外出支援の取組を試行的に行なったことのある人や、今後移動サービスに取り組む計画を持った人が含まれていることが分かった。この受講生らはサービスの実施主体として必要な知識と技術、資格を本講習で身につけ、今後活用できることとなった。その他の受講生にとっては、トラベルヘルパーとして移動サービスを利用する際に役立つ内容を学ぶことができ、また自らが所属する事業所の業務にさまざまな活かせる新しい知識と技術を得ることができた。

今後、通院・通所・諸手続といった「いかなければならない外出」から、知人との交流や旅行などの「いきいきとした生活のための外出」を実現するために、トラベルヘルパーや移動サービス等の中間支援組織、観光産業が、「外出」をキーワードに連携していくことが重要と思われる。トラベルヘルパー養成講座・運転者講習の教育研修が、それぞれ岩手・宮城・福島・茨城の受講生が繋がりコミュニケーションを取り情報交換の場としても活用できた。

被災地で移動サービスが必要となる理由

今回講習で使用したテキスト「移動サービス(自家用有償運送)認定 運転者講習テキスト」(第2章・移動サービス概要)によると、移動が困難になり、移動サービスを必要とする理由は身体面・地域面・利便性・経済面・生活面・精神面・意欲面、それぞれの要素が複合的に存在するとされている。被災地においては、移動が困難となった理由として以下のようなことがあげられる。

- ・身体面: 不自由な避難暮らしや環境の変化にともなう身体機能が低下している、仮設住宅の砂利道や段差等が外出を阻み介助技術を伴う移動手段が必要である。
- ・地域面: 公共交通機関が再開していない、仮設住宅が移動に不便な地域にある。
- ・利便性: 公共交通機関の運行本数が少ない、運行時間が目的の時間と合わない、目的地に便利な交通経路がない。
- ・経済面: 目的地までの料金が高いためタクシーを利用できない、今後の生活の見通しが立たないためできるだけお金を節約したい。
- ・生活面: 移動を支援していた家族の死亡、家族との別居、生活時間の変化等により、希望どおりの外出の支援を受けられない、情報が入手できず新しい居住地域の交通手段を使いこなせない。
- ・精神面: 周囲の人の目を気にして自由に外出できない、忙しい家族へ支援を依頼することへの気兼ねを感じる。
- ・意欲面: 被災により外出したい行き先、共に外出したい人をなくし、外出の意欲自体が低下している、様々な生活課題があり外出を楽しむ精神的な余裕がもてない。

そもそも地方においては、都市に比べて人口密度が疎であるため、生活していくための町の機能は分散している。そのため、マイカーへの依存が高く、1世帯において複数台数、車両を所有することが多かった。被災により車両を失い、再度入手するにあたっては、就労世代が優先され、日中仮設住宅に残っている方の分は後回しとなった。

仮設住宅では、駐車場の台数の割り当て制限もあり、駐車場を確保できない場合は、車両取得が難しい。

こうした数々の理由により、生活における移動が難しい方が数多く生まれ、被災地支援活動の報告会などで、移動サービスの担い手の育成は大きな課題としてあげられることが多い。

～教育研修受講生からのアンケート調査結果～

トラベルヘルパー養成講座に関するアンケート 集計表

団 体 名:	特定非営利活動法人 日本トラベルヘルパー協会
助成事業名:	高齢者の外出移動支援サービス人材育成事業
実 施 日:	平成 24 年 3 月 4 日
助成事業の形態:	①研修会・講習会・養成講座等の開催

利用者数: 9 名

回答者数: 9 名 回答率(%): 100.0%

《設問1: 今回のトラベルヘルパー養成講座の内容全般について、ご満足いただけましたか。》

とても満足	8
満足	1
やや不満足	
不満足	
計	9

《設問2: (1で「とても満足」「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。》
(複数回答可)

役立つ情報が得られた	7
日頃の生活や活動に役立った	8
スキルアップにつながった	8
他の参加者との交流・情報交換が図られた	9
抱えていた問題・不安の解消につながった	4
その他	
計	36

【その他良かった点(主なもの)】

- ・人に対しての気遣いも、色々な立場・見方で変わってくる。回答も一つではないということも学んだ。
- ・介護車など特定な事例について実技出来たことがとてもよかった。
- ・今後の活用のアドバイスなどを得ることができた。
- ・Eラーニングでは基本的な事も勉強でき、実技では今までやったことのないこともたくさん

ん学べた。あまり実践できない部分もたくさんあるので、今後は今回学んだことを活かせるよう経験を積んでいきたい。

・旅行のことは未知だったので勉強になった。旅行に興味を持ったのと旅行のパンフレットを見る目も変わった。

・鉄道を使つての移動や、建物を使つての色々な研修、トイレ・お風呂・視覚困難な人たちの目線が分かり勉強になった。

役立つ情報が得られなかった	
日頃の生活や活動の参考にならなかった	
スキルアップにつながらなかった	
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	
その他	
計	0

【その他良くなかった点(主なもの)】

・Eラーニングを1週間で行ったので辛かった。

3) 仮設住宅訪問活動

【目的と概要】

(目的)

仮設住宅で避難生活をおくる方、特に閉じこもりがちな高齢者に外出支援を行うことで、交流と社会参加の機会を創出し、健康維持につなげることを目的とする。これにより高齢者の健康を維持向上させるとともに、被災地域へ出かけることによる消費から地域経済を活性化し、復興へ繋げるものである。

特に介助が必要な高齢者については、介護サービスにも精通したトラベルヘルパーのノウハウを活かすことで積極的に参加を促すことを目的とする。

(概要)

2011年11月に開催された委員会の時点で、仮設住宅でのニーズ聞き取り調査は、仮設住宅の住民にとっては、今までにたくさんの調査やアンケートがある中で、負担となるのではないかという結論となった。

そこで、仮設住宅の住民を対象とした「スパ・リゾートハワイアンズ」への日帰りツアーを企画し、そのチラシをトラベルヘルパー受講生が仮設住宅で配る。チラシを配布しながら、その場で「ツアーに関してどう思うか」、また「こういったツアーがあれば今後も参加したいか」、という意向を聞き取りながら、その中で日常の移動に関して困りごとはないか等の意見を聞き取ることにした。

そして、ツアーが実施された際は、トラベルヘルパーとして同行し、支援することで、介助が必要な人でも参加することができる体制を整えた。

【福島県】

【調査者】福島市から受講 八巻ひろえ氏

【実施日】2012年1月24日(火)～2012年3月1日

【訪問先】福島県伊達市桑折駅前仮設住宅

【避難者地区】福島県浪江町、双葉町地域からの避難住民

訪問件数	約 200 件
会った人数	48 名

1) ツアーに関するコメント

- ・一人でも参加してみようかな。
- ・自分達は「浜通り」出身なので、何回もハワイアンズにはいった事があるから…。
- ・何もかも持ってこられるわけではないので、行く気持ちになれない。
- ・タダなら行く。
- ・娘がいわきにいたので、日程があえば行ってもいい。
- ・ハワイアンズもどのように変わったから見ても良い。
- ・行きたいけど、家族が介護施設に連れて行かなければならない。
- ・いろいろと忙しい。
- ・借り上げに住んでいる人も参加できるのか？
- ・気の合った人たちで参加してみようかな。

2) ツアー以外の外出ニーズ

- ・避難している孫に会いたい(山梨)。
- ・外出するには、このあたりは便利なところだ。
- ・中には自ら新聞の情報を見て、旅行している人もいた(これは抽選で当選した)。
- ・いろいろな情報を聞くと、交通費が無料で弁当が出たりするところなら、ヒマなのでどこにでも行ってみようかと積極的な方もいる。先日は東京に行ってきた。

3) 外出に関して困っていること

- ・今となっては特にない。だいぶ前より落ち着いてきた。
- ・雪が多い。

4) その他

- ・仮設住宅の所に飲食店(?)らしきものができたので、ここにきて話をするようになった人と、お茶又はコーヒーを飲みに行ったりしている。
- ・外に出ている人はいつも同じメンバー。家の中にいる人とはなかなか話す機会もない。
- ・カラオケ好きな人同士話が合って、たちまち仲間ができた。
- ・県外の方から布のぼろきれを送っていただけるそうで、これでパッチワークをする。

【調査者】郡山市から受講 舟木みつえ氏／吉田圭子氏／(鈴木翔子氏)／森野さとみ委員(アテンド)

【実施日】2012年2月6日(月)～2012年3月18日(日)

【訪問先】福島県郡山市の富田仮設住宅、ビックパレット隣仮設住宅

【避難者地区】福島県双葉町、富岡長、川内村からの避難住民

訪問件数	337 件
会った人数	192 名

1) ツアーに関するコメント

- ・有料でも行きたい。
- ・有料でバスを出すことは反対。
- ・有料でバスを出すなら、郡山の自治会は一切責任を持たない。
- ・協力しない。
- ・リフレッシュするような気分ではない。
- ・値段が高い。
- ・お金のかからない方法で行きたい。
- ・無料なら。
- ・今の状況が落ち着いたらバス旅行も行きたい。
- ・旅行するような状況ではない。
- ・富岡町の所有するバスを利用して自分たちで行って来られるので、わざわざ高いお金を払ってまで行かない。

2) ツアー以外の外出ニーズ

- ・埼玉の友人に会いに行きたい。
- ・お墓参りに行きたい。
- ・避難している子供たちに会いに行きたい。

3) 外出に関して困っていること

- ・買い物・通院などにタクシーでは負担が大きい。
- ・買い物に出かけたおばあさんが事故で亡くなった。
- ・買い物が遠くて大変。

4) その他

- ・集会所に足を運ぶ人も同じ人ばかり。
- ・町村ごとに抱えている問題が違う。
- ・川内村は帰村宣言の件でごたごたしている。
- ・さみしい思いをしている人がたくさんいると思う。
- ・(絆カフェ富岡では) 春に桜の花見を計画している。
- ・情報収集はテレビか仮設のメッセージボードのみ。

各自治体に関して～森野さとみ委員の所見～

・郡山の富田町にある仮設(東北歯科大学の下)は、福島県富岡町、川内村、双葉町の3町村がひとつの地域に入っていて、450軒以上の巨大な仮設住宅には、それぞれの集会場が設置されているものの、一番寒いこの季節に出歩いている人は、ごくごくまばらで、集会場に足を運ぶ人達も同じ顔ぶれが多かったように感じられた。また、それぞれ町村ごとで抱えている問題も違うのを目の当たりにして、まだまだ楽しむ、リフレッシュする・・・という事に抵抗があるようにも感じた。

・3町村が入っている仮設全ての中心窓口となる「おたがいさまセンター」(ここは富岡町運営だが、川内村、双葉町住民も利用可能で、チラシ配布でも受付後に腕章を貸してくれて不審者でない証明としてくれた)が、我々のチラシ配布をした頃には開設準備で忙しく、富岡町の自治会の関係者には日帰り旅行に興味を持ってもらえるも、忙しくなかなか話が進展しなかった。

・川内村の自治会長も、集会場に集まる方々から意見をまとめ、結果「日帰り旅行も良い事だと思うが やはり値段が高いから集まらないよ」と、直接電話連絡をもらった。特に川内村は、現在の郡山市内の放射線量よりも線量が低い事もあり、遠藤村長が4月に帰村宣言を出し、仮設住宅の住民からの声は「やっと今の仮設にも慣れて、便利な郡山でもいいのに、帰村しても結局趣味の畑仕事もできず、店や病院もまばらで車のない高齢者には戻る意味がない」と、帰村宣言にとまどいを感じている人が多いように感じられた。今後もずっと外部の除染は行くだろうが、1年間ほったらかしにした家の中はキノコやカビが生えたような半壊状態になっている。家の中の線量の問題にも大きな不安を持っていて、帰村する場合は家の修理費などお金がどれほどかかるかわからない状況での日帰り旅行は有料だと難しいと感じた。

・双葉町は舟木氏・吉田氏が足しげく通い聞き取りした結果、役場では大変前向きに考えてもらったが、やはり最後は自治会長の判断という事で「有料での日帰り旅行は、一切協力は難しいが、個別に有志で催行させるのは問題ない」とのことであった。先日のニュースでも報道されたが、双葉町は今後福島に戻る事を現時点

では断念して、他県に双葉町を作る構想があり、同じ仮設住宅の中でも、それに賛成派・反対派に分かれているなど、埼玉県の高設住宅の住民は主に他県移住に前向きな方が多いようだった。

・郡山のビックパレット隣にある富岡町と川内村の高設住宅は、集会所と生活相談員の詰め所などを訪問したが、やはり社会福祉協議会や自治体は「一切協力しないが個別に責任をもってチラシ配布はかまわない」と許可をもらって配布した。富岡町の高設のように、チラシ配布の際に腕章のような目印になるものが何もないために、巡回中の警官に「部外者立ち入り禁止」と、注意されたので、個別訪問は断念した。

【岩手県】

【調査者】岩手県から受講 廣内幸得氏

【実施日】2011 年 12 月 21 日(水)～2012 年 3 月 16 日(金)

【訪問先】田野畑村高校高設住宅、田野畑村中学校高設住宅、田野畑村アズビィホール高設住宅

訪問件数	15 件
会った人数	48 名
ツアーに前向きな人	16 名

1) ツアーに関するコメント

- ・あまり旅行は行った事がない(面倒)。
- ・もう少し落ち着いたら温泉などに行きたい。
- ・ツアーが盛岡発とか、宮古発が多く、参加したくとも、参加できない(人数がまとまらない)。
- ・旅行に使うお金があれば貯金しておく(先行きが不安)。
- ・費用が安くて、田野畑の高設から出るようなツアーがあれば参加してもいい。

2) ツアー以外の外出ニーズ

- ・通院。
- ・カラオケに行きたい。
- ・買い物に行きたい(盛岡や八戸など遠出したい)。
- ・自宅跡やお墓参りに行きたい。

3) 外出に関して困っていること

- ・三陸鉄道が不通のため、通院が不便。
- ・三陸鉄道が早く開通になるとよいが、高設住宅から駅まで遠いので不便。
- ・寒くなってきたので、歩いてでかけるのが億劫。
- ・人に頼むのを遠慮して、なるべくでかけないようにしている。

4) その他

- ・特に出かける用事もないが、高設住宅には知り合いが近くにいたので、何かあれば頼めるので安心。
- ・今は仕事とか住むところが早く決まらないと、遠出をする気分にはなかなかない。公営住宅の整備など急いでほしい。

【宮城県】

【調査者】宮城県から受講 平美恵子氏／須田美和子氏／北村邦夫氏

【実施日】2012 年 2 月 6 日(月)～2012 年 3 月 22 日

【訪問先】石巻市、仙台市、名取市

訪問件数	13 件
会った人数	45 名
ツアーに前向きな人	2 名

1) ツアーに関するコメント

- ・イベント会場などで顔見知りになった方など、日帰りの近場の温泉にでも行けたらいいのに。
- ・いくらぐらいの料金なら旅行に行けるのかと尋ねたところ、少し困惑し、2,000～3,000 円ならいけるかもしれないとのこと。
- ・震災から 1 年経つが、日々の生活をしていく頃で今は精一杯。
- ・そこまでの余裕がまだない。
- ・今は何もなくなってしまったので生きるのに必死。
- ・認知症の家族を置いて出かけられない。

2) ツアー以外の外出ニーズ

- ・自分の目で見て買い物をしたい。
- ・病院に連れて行って欲しい。
- ・映画を見たい。
- ・散歩したい。
- ・友人、親戚の家に行きたい。
- ・お墓参り。

3) 外出に関して困っていること

- ・認知症の母親がいるので、思うように外出できない。
- ・ガイドヘルパーにしてもらうことが限られているので、大きな買い物などをしてもらうことができない。
- ・車が流されたので、買い物に困っている。
- ・外出以前の問題で、まずその気分になれない。
- ・車がない。
- ・病人を一人でおいていけない。
- ・出かけたが、一人では不安。
- ・知らない土地なので、店がどこにあるかわからない。
- ・散歩をしたいが、一人では不安。
- ・足腰が悪いので、なかなか外出できない。

4) その他

- ・これからどうしたらよいのかを考えると気が重くなってしまう。
- ・住宅もまだ泥が残っている状態で、身内にも不幸があるので、とてもいろいろなことを考える気になれない。
- ・やっとイベントに友人 3 人と初めて外出した。
- ・仮設住宅は狭いので、家族だけで生活するのが精一杯。荷物を仮設住宅に運んでこられない。
- ・今まで広い家に住んでいたが、仮設住宅は狭くってつけた感じでまさに“仮設”で住まいとは言えないが、(住み移る)家がない。
- ・仮設住宅内の集会所に集まって、みんなで小物類を作って、それを売って自分たちの小遣いにし、生活の足しにしたい。
- ・楽しく笑って前向きに過ごしたい。
- ・気分がもりあがらない。
- ・凍って水道が出ない。住居も凍っている。
- ・親戚の所にしばらく住んでいたが、だんだん精神的に居づらくなり、仮設住宅に来た。皆が同じ境遇なので、「これだったらすぐに来た方が、どれだけ気が楽だったか」と感じた。
- ・何もすることがないのでパチンコをしている。

【茨城県】

【調査者】茨城県から受講 高安美加子氏

【実施日】2012 年 2 月 17 日(金)～2012 年 3 月 6 日(火)

【訪問先】北茨城 NPO 法人ウィラブ北茨城／雇用促進住宅内「あすなろ会」

【避難者地区】北茨城市

訪問件数	2 件
会った人数	9 名

1) ツアーに関するコメント

- ・福島的事例を参考に、茨城では偕楽園の梅まつりにあわせた企画を別に提案してみたい。

2) ツアー以外の外出ニーズ

- ・旅行の積立をしている。

3) 外出に関して困っていること

- ・以前は海岸近くに住んでおり、買い物も便利な所だったが、雇用促進住宅は山中にあるため、買い物にも車が必要。
- ・タクシーで買い物に行くが、1 回 9000 円もかけて行っている。
- ・心臓に持病があり、歩いての外出は息が切れて大変。車いすなどが使えれば外出の幅も広がる。

4) その他

- ・自分たちの中でトラベルヘルパーのような資格を持っている人がいれば、介助が必要になっ

た人が周りにいた時に便利だと思う。

- ・たまたま避難所が同じになった人で、震災以前は交流もない人だったので、引きこもる状態だった。

- ・あすなろ会を発足した当初は誰も来なかった。

- ・あすなろ会では一人一人が得意とする分野で力を発揮し、自分たちで頑張ろうという前向きな人たちばかり。

- ・PAL システム、日本財団、さわやか福祉財団の支援を受け伊香保温泉、東京ディズニーランドへの旅行を実施。

【考察】

今回、福島県においては「スパ・リゾート ハワイアンズ」、福島県郡山市ではそれに加え「東洋健康センター」へのリフレッシュツアーを企画し、作成したチラシを持って仮設住宅を訪問した。福島県内での仮設住宅訪問活動については、ツアーへの参加を促すと共に、会話の中で日常生活の中での移動・外出について困りごとがあるか、またその困り事の原因は何かを聞き取った。結果、福島県伊達郡桑折町仮設住宅においては、「スパ・リゾート ハワイアンズ」のツアーに 39 名の参加者が集まった。ツアーについては次項で詳しく記載するが、こういったツアーを通して同じ福島で頑張る仲間を応援するとともに、自分たちも元気になって気分をリフレッシュしたいということが「一人でも参加したい」という人の意見から表れている。

一方で、外出に対するニーズについては、福島県に限らず他県においても震災から 1 年が経つが、これからの生活に不安を持ち、旅行・外出でリフレッシュするような気持にはなれないという意見も多い。

特に日常生活の中での移動・外出ニーズとしては、買い物、通院、お墓参り、避難している家族(親戚)・友人に面会したいというような要望があがっているが、車がない、病人・要介護者を置いていけない等の理由で移動・外出が困難な人がいることがわかる。

「自分たちの中でトラベルヘルパーのような資格を持っている人がいれば、介助が必要になった人が周りにいた時便利だと思う」(北茨城 雇用促進住宅)という声からもわかるように、トラベルヘルパーという存在を知ってもらい、外出支援や移動サービス技術を持った人が被災地で育つことにより、新たなネットワークが構築され、ボランティアや関係者が増え、継続的な移動サービスが可能となるのではないだろうか。

[illegible]

2012年 2月11日(土) 天気 晴れ 活動時間 9:30~12:00

2012年 2月11日(土) 天気 晴れ 活動時間 9:30~12:00

NO.		

地区	施設等施設名	氏名	性別	年齢	連絡先	水平	見込み
郡山	富田 仮設	I(1-1)	女			買い物が遠く大変。	B フォローすべきことなし 寒さの割に、会話を途中で中断してしまふので、まだ会話には 今の生活には満足している...とのこと。 だから、今会話をしなさい。
"	"	I(1-5)	女			夜、外が真暗だ。話ので外灯を取り付けてもらってからは安心している。	B 申し込みの手帳を明けかきしたので、もう一度くらい話しつけてほしい。
"	"	I()	男			東電関係の仕事をしている。	A

*参加見込み:A(高い)~C(低い)

[illegible]

35

4) 移動サービス、外出支援サービスの実施

① 福島県福島市・郡山市仮設住宅の居住者を対象としたバスツアーの実施

～「スパ・リゾート ハワイアンズ」日帰りバスツアー～

【実施日】2012 年 3 月 7 日(水)

【行先】福島県いわき市 スパ・リゾート ハワイアンズ

【参加者】福島県桑折駅前仮設住宅の方 39 名

【目的】

仮設住宅で避難生活をおくる人、特に閉じこもりがちな高齢者に外出支援を行うことで、交流と社会参加の機会を創出し、健康維持につなげてもらうことを目的とする。これにより高齢者の健康を維持向上させるとともに、被災地域へ出かけることによる消費から地域経済を活性し、さらに雇用創出することで復興へ繋げようとするもの。

特に介助が必要なお年寄りの参加については、介護サービスにも精通したトラベルヘルパーのノウハウを活かすことで積極的に参加を促すもの。

【ツアー名】

自分を元気にしよう！福島の仲間を元気にしよう！みんな一緒に元気プロジェクト『スパ・リゾート ハワイアンズ～日帰りフレッシュ旅行～

【行程】

桑折駅前仮設サポートセンター(08:00 発)⇒『スパ・リゾート ハワイアンズ』(10:15 頃着、16:00 発)⇒桑折駅前仮設サポートセンター(18:00 頃着)

【報告】トラベルヘルパー受講生 八巻ひろえ氏

桑折の仮設、7 時 40 分配車だが、20 分前には到着。すでに 4 名が待っていた。ラジオ体操の頃にはいたそうで、行く気満々。徐々に集まり始め TV 局(福島放送)も来た。午後 6 時の放送なのでバスで見られた。石川さん(桑折仮設副自治会長)はこれまで集客に協力頂いた。

予定時間の 8 時に出発し、高速道路での移動。NHK の番組「あさイチ」で浪江の人が映るということで朝ドラの「カーネーション」と撮影収録したものを車内で見た。夕方は今日の出発の様子とハワイアンズでの様子が放送され、きっと良い思い出になるだろう。郡山市の NPO 法人あっとホームサービスの森野委員がテレビ局に連絡してくれたことに感謝。

車内はガイドの歌、お話、お茶タイムと 2 時間 30 分位でいわきに到着。前とは玄関が変わり、エレベーターで移動。脇のスロープを使うと下の売店に行ける。控室に案内されると、お風呂に行く人、談話する人、見学に行く人それぞれであった。11 時 30 分からはバイキングで昼食。そしてタヒチアンショーが 13 時 30 分から開演された。皆が魅了されていた。

舞台に上がっての体験ショーがあったが、浪江の人はガイドと同じく控えめな人ばかりで、舞台に上がればテレビに撮りたかった様子。

福島放送の記者は、その代りに控室での様子を撮っていた。お土産も買って心置きなく 15 時 30 分に出発。カラオケとふるさと浪江の歌を歌い、安達太良サービスエリアまではよかったが、その先高速道路の二本松から通行止め。2 時間、到着は遅れたが、綾小路きみまろの DVD をみて皆大きな声で笑っていた。トイレは長時間乗車していたため、桑折駅西口を利用してもらった。桑折仮設へ着くと自治会長が待っていた。20 時 20 分頃到着。無事終了した。

【考察】

別資料でのアンケート結果でもわかるように、参加者のツアー満足度は高いものになった。同じ福島県内でもスパ・リゾートハワイアンズに初めて行く人が多いのは意外ではあったが、「とても満足」、「満足」を選んだ人が大多数を占め、温泉よりもフラガールショーを見て感激した人が多くいた。また、「気分転換」「ストレス発散」にも効果的である事を多くの参加者が自覚し、「また参加したい」「旅行に行きたい」という外出意欲も引き出すことができた。

出発前の調査では「とてもリフレッシュする気分にはなれない」という意見もあったようだが、バス車内では被災者同士がふれあいの機会をもち、励まし合うことは、今回のツアータイトルのように「みんな一緒に元気」プロジェクトにすることができたと思う。

また、車いす利用等の要介助者の参加はなかったが、トラベルヘルパーが同行する事で安心感をも持って、安全・快適な旅を提供できた。

高齢者が外出する事により、疲弊した観光地を活性化させ、消費を増やすことができれば当然ながら被災地の雇用創出にもつながっていくと考えられる。

～参加者のアンケート～

福島応援 みんな一緒に元気プロジェクト

スパ・リゾートハワイアンズツアーに関するアンケート 集計表

団体名:	特定非営利活動法人 日本トラベルヘルパー協会
助成事業名:	高齢者の外出移動支援サービス人材育成事業
実施日:	平成24年3月7日
助成事業の形態:	⑤その他

利用者数: 39 名

回答者数: 39 名 回答率(%): 100.0%

《設問1: 本日の「スパ・リゾートハワイアンズ日帰り旅行」の旅行全般について、ご満足いただけましたか。》

とても満足	18
満足	19
やや不満足	0
不満足	1
計	38

《設問2: (1で「とても満足」「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。》

スパ・リゾートハワイアンズが楽しかった	3
温泉	7
プール	1
フラガール	29
食事	10
バスの車内が楽しかった	16
リフレッシュできた	14
他の参加者との交流・情報交換が図られた	7
その他	

・車内のガイドさんお機転がよく、楽しかった。

- ・温泉、館内とても暖かくすっかり暖まった。
- ・リフレッシュできました。
- ・今注目のフラガールショーを生で見ることができた。温泉・サウナに入れたから。
- ・車内が楽しくバスガールが良かった、この次もお願いします。
- ・友達と話ができた。
- ・雪の所から東北のハワイに雪が無く暖かさ、心のリフレッシュができた、後日日帰りの旅の企画を。
- ・以前は自分の子供たちが小さいころに来ましたが、今回は自分が楽しむために来られました。

《設問3: (1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方)どのような点が良くなかったですか。》

スパ・リゾートハワイアンズが楽しくなかった	4
リフレッシュできなかった	0
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	1
その他	0

【その他良くなかった点(主なもの)】

- ・あんまり暖かくなかった。

《設問4: 今回のツアーにお申込みいただいた理由をお聞かせください》
(複数回答可)

地元福島を応援するため	16
ハワイアンズに行ってみたかったから	21
募集チラシがよかったから	4
料金が安かったから	2
トラベルヘルパーが同行するから	5
その他	0

【その他申込み理由を具体的に教えてください】

- ・気分転換をしたかった。
- ・何十年ぶりにハワイアンズに来た。
- ・石井さんの人格がよく誘われたから。
- ・私の周りの人が行くので。
- ・八巻さんとの出会い またよろしく。
- ・となり近所と相談して、みんなで行こうという事になりみんなで楽しむ。
- ・仮設生活の中でも1日1日を大切に思い出をつくっていきたいから。
- ・石井さんの声かけに。

- ・引きこもりがちな日常でしたので、最近になってやっと外を見る気持ちになりました。
- ・石井さんがよかったから。

《設問5: 今後もこのようなツアーがあったら参加したいと思いますか》

(複数回答可)

参加したい	15
行き先によっては参加したい	21
予算内の旅行代金であれば参加したい	3
～5,000 円	1
5,001 円～10,000 円	3
10,001 円～20,000 円	3
参加したくない	0

《設問6: 次回「三春町 滝桜」の日帰りツアーをキック明日場合についてご意見をお聞かせください》

参加したい	18
参加したくない	10
計	28

【それぞれの理由を具体的に教えてください】

- ・気分転換したいから。
- ・移動が大変だから。
- ・今までチャンスが無かった。
- ・行ったことがありますので。
- ・一度も行ったことがないから。
- ・何回も行っているから。
- ・その時がこなければ今はわからない。
- ・よく行っていたので(参加したくない)。
- ・見に行ったことがあるので(参加したくない)。
- ・時期、天候もあるので、それぞれをみて行きたい。
- ・何回も行っている(ので参加したくない)。
- ・何回もみているから(参加したくない)。

《設問7: 今回のツアーを皆様はどのように感じましたか。》(複数回答可)

とても元気になった	8
気分転換ができた	29
ストレス発散になった	10
有意義でなかった	0

【有意義でなかった場合の理由を具体的に教えてください】

・

《設問8:これからも笑顔の自分に会うためにどんなことをやりたいですか。》

私どもはこれからも積極的に福島の応援を続けてまいります。皆様のお声はこれからの応援をカタチにしていくための参考になります。率直なご意見をお聞かせください。

- ・県内の観光地はとても疲弊していると、少しでも応援したいと思っています。
- ・福島のために。
- ・一泊以上の旅行が必要。
- ・企画者の笑顔はとても影響すると思います。
- ・又日帰り旅行に行きたい、とても良い。
- ・湯湯治みたいな旅行なら参加しても良い。
- ・安全運転をされた運転手さん、添乗員さんの細かい心配り、ガイドさんの楽しいお話し、本当に楽しい一日でした、ありがとうございました。
- ・皆の声を聞き、コミュニケーションが図られた。
- ・自分。
- ・日帰り旅行の企画を。募集に応援致します。八巻さんありがとう。
- ・仮設で生活して半年以上たちますが、この様に一緒に出掛けて初めて名前を覚えることができますので、ぜひこれからも参加したいと思います。
- ・旅行などにはなるべく出ることしていきたい。
- ・バスガイドさん、大変良かったです。
- ・美人に会いたい。

委員会の実施

② 運営委員の構成

役職名	氏名	所属
委員長	篠塚 千弘	株式会社 SPI あ・える倶楽部
委員	柴田 亮	株式会社 経営共創基盤
委員	秋山 糸織	杉並区移動サービス情報センター「もびへる」
委員	森野 さとみ	NPO 法人 あっとホームサービス
委員	常木 悟	株式会社 SPI あ・える倶楽部
委員	篠塚 恭一	NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会
委員	西野 佳名子	NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会
オブザーバー	酒巻 秀利	株式会社 法研
事務局	篠塚 登紀雄	NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会
事務局	伊藤 絵美	NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会

③ 運営委員会開催日程・内容

第1回 WAM 運営委員会

2011年9月27日(火) 16:00～19:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【出席者】

西野佳名子／篠塚恭一／篠塚千弘／常木悟／篠塚登紀雄／伊藤絵美

【協議・検討内容】

1. 委員選出
2. 関連団体選出
3. 事業計画立案

第2回 WAM 運営委員会

2011年10月31日(月) 13:00～15:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【出席者】

篠塚千弘／森野さとみ／秋山糸織／柴田亮／常木悟／篠塚恭一／酒巻秀利
篠塚登紀雄／伊藤絵美

【協議・検討内容】

1. メンバー紹介
2. 事業計画、スケジュール確認
3. 事業計画「3. 関係者間の連携体制づくり」について
4. 次回運営委員会日程について

第3回 WAM 運営委員会

2011年11月26日(土) 13:00～15:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【出席者】

篠塚千弘／森野さとみ／秋山糸織／柴田亮／西野佳名子／常木悟／篠塚恭一
酒巻秀利／篠塚登紀雄／伊藤絵美

【報告事項】

1. 2011年11月22日・23日盛岡出張報告

【協議・検討内容】

1. 前回運営委員会議事録確認
2. 被災地の仮設住宅での聞き取り調査について(調査内容など)
3. トラベルヘルパー養成講座の研修実地場所について
4. 運転者講習実地場所について
5. その他質疑応答
6. 次回運営委員会日程について

第4回 WAM 運営委員会

2011 年 12 月 24 日(土)13:00～15:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【出席者】

篠塚千弘／森野さとみ／秋山糸織／柴田亮／西野佳名子／常木悟／篠塚恭一
酒巻秀利／篠塚登紀雄／伊藤絵美

【報告事項】

1. トラベルヘルパー養成講座受講生の進捗状況報告

【協議・検討内容】

1. 前回運営委員会議事録確認
2. 仮設住宅でのツアープログラム実施について
3. 受講生へのアルバイト賃金について
4. 運転者講習の実施日程・開催場所の確認
5. 次回運営委員会日程について

第5回 WAM 運営委員会

2012 年 1 月 26 日(木)18:00～19:00

場所:東京都千代田区一番町

【出席者】

篠塚千弘／森野さとみ／西野佳名子／常木悟／篠塚恭一／伊藤絵美

【協議・検討内容】

1. 仮設住宅訪問活動について
2. 福島県仮設住宅の住民向けリフレッシュ旅行「スパ・リゾートハワイアンズ」について
3. スパ・リゾートハワイアンズの後に新たなツアーの企画について

第6回 WAM 運営委員会

2012 年 2 月 4 日(土)15:00～17:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【出席者】

篠塚千弘／森野さとみ／秋山糸織／柴田亮／西野佳名子／常木悟／篠塚恭一
酒巻秀利／篠塚登紀雄／伊藤絵美

【協議・検討内容】

1. 第4回運営委員会・第5回運営委員会議事録確認
2. 仮設住宅訪問活動について
3. 「スパ・リゾートハワイアンズ」ツアーについて
4. 茨城交通から受講の高安氏の仮設住宅訪問活動について
5. 運転者講習の日程・場所について最終確認
6. その他議題、質疑応答
7. 次回運営委員会日程について

第7回WAM運営委員会

2012年3月15日(木)15:00～17:00

場所:トラベルヘルパー協会ミーティングスペース

【参加者】

篠塚千弘／森野さとみ／秋山糸織／柴田亮／西野佳名子／常木悟／篠塚恭一
酒巻秀利／篠塚登紀雄／伊藤絵美

【報告事項】

- 1.受講生進捗状況報告
- 2.「スパ・リゾートハワイアンズ」ツアーについて報告
- 3.仮設住宅訪問活動について報告

【協議・検討内容】

- 1.前回運営委員会議事録確認
- 2.事業完了報告書について
- 3.その他議題、質疑応答
- 4.今後のスケジュール確認

4 総括

「旅」や「外出」の目的は、楽しみの為という「旅行」が第一に思い浮かぶことが多いが、高齢になるにつれ、墓参りやふるさと訪問、孫に会いに行くなどの心の励みの為、また、病院への通院など命を繋ぐ為、など、楽しみ以外の目的の割合が高くなる傾向にある。

昨年の東日本大震災後、福島第一原発事故で立ち入りが規制されている警戒地域への一時帰宅で、福島県南相馬市では、「移動に支援を必要とするものは一時帰宅の対象としない。」との見解が示された。自力歩行が困難、介助が必要というだけで、「対象外」とは、あまりにも被災者の心情を理解していない、国の対策としてお粗末すぎるものだった。

また、多くの高齢者が、家を無くし、住み慣れたわが町を離れて、不慣れた仮設住宅で家族や友人を亡くした悲しみを心に抱え、親しい知人もいずに近所付き合いもないという。また、移動手段も不便なために、家に閉じこもりがちになり、健康不安が問題となっている。自殺、孤独死、孤立死の報告も増加する傾向にある。

こうした不活発な生活環境から元気だった高齢者が健康不安を訴え、震災後に歩けなくなったり、歩きにくくなったりして、回復しない人の割合が仮設住宅で増えていると聞く。「家の外ですることがない」「家の中ですることがない」「外出の機会が減った」などが原因で、震災によって家庭での家事や日課、地域社会での役割やつきあい、楽しみや目的が激減したことが、健康状態に大きく影響していると考えられる。

また、被災地では補償金をあてにして働く世代が労働意欲を失くすなど、職を求めない者が増えていることも問題になっている。

東北の復興に今必要なことは、これまでのような生活リズムをとりもどし、生きがいをもって暮らせるように環境を創ろうという方針を示すことで、内面的な課題に明るい方向性を持たせるような希望をつなぐ支援が大事だと考える。

仙台秋保温泉蘭亭のマネージャーによると、仮設住宅で避難生活を送る人が家族とともに心身の保養をもとめて、クリスマス、忘年会、お正月と、温泉地で過ごすことが例年より多く、今までにない業績で「震災特需」が続いているそうだ。

外出の促しにしても、個々のニーズに対応するだけでなく、コミュニティの再生へとつながる形の企画が必要である。

当協会では、被災地支援プロジェクトとして「南三陸町・石巻市における最上町へのリフレッシュツアー（短期避難制度）」における要介護者への参加支援や、一関・陸前高田・気仙沼での移動支援ドライバー派遣を行ってきた。

その経験を踏まえて今回は、被災で大きな打撃を受けた地元バス会社、介護事業者に勤務するヘルパーなど8名が、トラベルヘルパー養成講座、移動支援ドライバー（運転者講習）講座を受講した。同時に、仮設住宅で暮らす被災者に、リフレッシュ日帰りバスツアーを呼びかけ、福島交通株式会社、郡山市で活動するNPO法人あっとホームサービスなど地元法人が連携して活動を行った。旅行企画は、介護旅行、トラベルヘルパーサービスを全国で展開するあ・える倶楽部（東京都渋谷区・㈱SPI）が協力した。

仮設住宅などで避難生活を送る人が外出機会を失い、運動不足からこの冬の間に健康状態を害することが懸念されていたことから「旅行等の外出による介護予防と生きがいづくり」として同じ地域に住む人たちが自ら企画し呼びかけることにした。つまり被災地の力で互いに助け合い、雇用機会を築こうという趣旨である。

仮設住宅で暮らす一人一人が元気であること、元気になることで、周囲の人に元気を伝えていくこと、そして、明るくがんばっている福島の仲間「スパ・リゾート ハワイアンズ」のフラガール達を応援すること、地元のバス会社を利用して産業を活性化すること、つまり、みんなで福島を元気に明るくしよう、という趣旨を説明しながら、

受講生らが仮設住宅をまわり参加を呼び掛けた結果、趣旨に賛同した39名が「スパ・リゾート ハワイアンズ」リフレッシュ日帰りバスツアー参加した。

他にも仮設住宅の住民対象にリフレッシュ日帰りバスツアーを企画したが、実現に至らなかった。その理由は、この取り組みを理解して各仮設住宅に暮らす人に繋ぐ自治会等の協力者がいなかったからだ。特に原発避難周辺地域の人たちは、帰村問題が生じた時期と重なり、取りつく島も与えられなかったのが非常に残念であった。

トラベルヘルパーは、外出を希望する高齢者のそれぞれの目的の為に、その人の「想い」に寄り添い、安心、安全に外出や移動を支援するプロのサービス提供者であるとともに、外出の相談に耳を傾けて、第三者に繋ぐコーディネイターであることも大切な役目だ。

また、災害時や緊急時にも対応できる応用性があることがわかった。自由に移動させる介助スキルを訓練されており、避難時や不自由な避難生活の中で被災した高齢者の大きな不安をともに共有して、少しでも安心してもらえよう心のケアも学んでいるからだ。

あの震災から1年。

今回の事業を通して、被災地の人の深い悲しみや不安を乗り越える勇氣、人と人とのつながりの強さ。あの記憶を忘れず、立ち上がろうとする勇氣と元気に、こちらが勇氣と元気をもらったようだった。

仮設住宅を訪問し、今回のツアー参加者を一生懸命募ってくれたトラベルヘルパー養成講座受講生、仮設住宅の世話人、ご協力下さった福島交通の関係者、そして、趣旨に賛同しツアーに参加して下さいた人から感謝したい。

身体の不自由な人や高齢者に外出の希望を叶えることで、未来が見えない働く意欲を失くした労働者にやりがいのある仕事として、これからも継続的な雇用を生むことに期待している。そして、現地の企業と連携して産業復活を果たす為にも、まずトラベルヘルパーを育成することがこれからも必要と考える。

被災地に住む高齢者がこれから安心して希望や生きがいを持って暮らしていくためにも、支援団体、自治体とともに民間産業界が三位一体で連携して、被災地域における高齢者の外出支援サービス、トラベルヘルパーサービスの事業化が求められる。そうして新たなコミュニティとネットワークを構築し、被災地の活性化を図ることが最重要課題であると考えます。

今後、超高齢者社会という決まった未来が進む中で、自分たちの将来像を見据えて、日常生活における地域移動システムをソフト、ハード、ヒューマンウェアの三方向から整備していくことは、緊急時、災害時に、高齢者や身体が不自由な人の命を守るシステムとしても機能していくはずである。

「日にち葉」というが、「日にち復興」の段階に入っている。一日が積み重なり、一人一人が集まってみんなになると、大きな力、すごい力を発揮する。あきらめず自分たちの力を信じて、日々前進すること、犠牲になった方々のためにも、東北のみなさんと一緒に、笑顔で前を向いて一日一日を重ねていこう。

どんなささいな「希望」でもかまわない、その「希望」を叶える外出について、移動について、引き続きトラベルヘルパーサービスで応援し続けていくことを改めて心に誓った。

《協力機関・団体》

株式会社 SPI あ・える倶楽部

株式会社経営共創基盤

NPO 法人全国移動サービスネットワーク

NPO 法人ウィラブ北茨城

NPO 法人あっとホームサービス

福島交通株式会社

株式会社法研